

「世」を願ひ、そうありたいと人生を歩んでいるわけですが、それぞれのスタートラインも違えば、状況も違います。駆け足で前に進んでいる人、ゆっくりと一步を踏み出す人もいれば、立



みんなで外出。バラ園にて

それぞれの人生には順調な時もあるけれど、失敗する時もある。ふり返った時そこには美しい花が咲いているのだと、決して「モーレッツ」を煽るような歌でなくて、みんなの人生にエールを贈る歌でした。

## 二歩進んで二歩さがる

所長 水野 英尚

「しあわせは歩いてこない だから歩いてゆくんだね」と、歌手・水前寺清子さんの「三百六十五歩のマーチ」のフレーズです。1968年11月に発売されたこの曲は、高度経済成長の只中、ひたすら成長を目指す世相を反映し大ヒットしました。歯切れ良い歌声で「休まないで歩け」ソレワン・ツワン・ツワンと多くの国民の士気を高め、「モーレッツ社員」などの言葉が生まれたのもこの頃です。安倍内閣の新たな戦略のフレーズは「一億総活躍社会」ですが、どうも安易に国民を「一括りにされるようで、違和感を覚える方も少なくないようです。多くの人は、自らの「幸せ」を願ひ、そうありたいと人生を歩んでいるわけですが、それぞれのスタートラインも違えば、状況も違います。駆け足で前に進んでいる人、ゆっくりと一步を踏み出す人もいれば、立

ち止まって考えている人だっています。倒れている人だっているわけです。「一億総……」と十把一絡げにすれば、そこから漏れ出す「社会的弱者」が必ず出てきます。誰も取りこぼさない柔軟な社会を目指すなら、乱暴に「一括りに表現せず、もっと謙虚さをもって、周囲（福島や沖縄等）を見渡す。そして、今何をすべきかをじっくり考えてこそ、人々を優しく包み込む社会は生まれるものだと思います。そう言えば、先の「三百六十五歩のマーチ」は、「二歩進んで二歩さがる」と「あなたのつけた足あとにや きれいな花が咲くでしょう」と、それぞれ



小さなたねの物語が描かれたスタンドグラス（ガラスアート TAKAMI 製作・寄贈）

## たねスタッフのつぶやき

「健康のために」と始めたヨガは、私にとってもピッタリで、やればやるほど深みにはまり、魅力を感じています。先日、Beach yoga (ビーチ・ヨガ) に参加する機会がありました。早朝の浜辺は最高に心地よく、波の音、青空、風、砂の感触……とても新鮮で癒されました。「ヨガは他者と比べたり競ったりするものではなく、呼吸と身体の動きを通して気持ち良いという感覚を大切に（ありのままの自分）を感じながら、心と体を丁寧に手入れするもの」だとか。

「好きなこと（もの）」が見つかる嬉しいですね。

山口（保育士）



医療法人にのさかクリニック  
地域生活ケアセンター 小さなたね

〒814-0172 福岡市早良区梅林6-23-3  
電話 092-874-3051 FAX 092-874-3052  
E-mail : chisanatane@tune.ocn.ne.jp



## 後記

出かけようと駐輪場に行くときと自転車がない！…あっ、昨日近所の店に寄って、忘れて徒歩で帰ったんだ。幸い自転車はあったが用事には遅刻。やれやれ。物忘れの多さに恐ろしくなる。以前、失くした財布が警察に届けられ、受取りに行った時のこと。机の上に中味が全て……しゃくしゃくのレシートも、ちぎれた紙切れも広げられ、明らかなゴミまでもが整然と並んでいる。「全部あるか確認して下さい」。すぐにも消えたかった。そういうわけで、財布の中は整理しておこう、というお話でした。（E）



## いのち育む「コミュニティ」

「コミュニティ (community)」は、日本語で「地域」や「共同体」と訳されます。しかし、共同体などと聞くと想像や文化の統制された集団をイメージして、少々窮屈に感じてしまいます。ですから、一般的に「コミュニティ」と表現する方がイメージが伝わりやすいと思います。

現代社会は、ネット社会の功績で、離れた人と瞬時に繋がることができます。もはや、地域社会の枠組みや概念も多様化しています。しかし、どんなに多様化していても私たちは一つの場所に居住し、そこで日常生活を営んでいます。そこまでバーチャル化して暮らすことはできません。若年層が地域の自治体に参加しないと言われていますが、その人たちも、次第に老いや病と向き合う時が必ず来ます。また、「障がい」を持つことだってあります。そのような状況になった時に、これまで暮らしてきたその場所で暮らし続けていくことができるのかどうか、それは誰にとっても重要な課題なのではないでしょうか。どのような年代であれ、共通課題として捉えなければなりません。これから私たちがどう生活し、あるいは誰と暮らしていくのかを考

えることは、未来を語る上で必須のテーマです。

ある人は家族という血縁の中で、将来の暮らしをイメージします。自分が親を看てきたように、自分の子どもたちが自分を看てくれると考えます。あるいはまた、自分の子どもに世話にならなくて良いように、しっかりと貯金を蓄えセカンドライフを満喫しようと考え人もいることでしょう。ところが、そのように自らで描いたように生きられる人は、一握りの「富裕者層」だけだという厳しい現実があります。

今後の年金世代の増加や少子化による人口減少、国の財政が借金を先送りにし続けていく中、社会保障や医療費は増え続ける一方です。もはや「国がどうかしてくれる」という幻想に頼らず、わたしたちが目の前の人たちと、どのように生きていくのかを考えることが必要です。つまり、自らの暮らししているその中で、これまでの地縁や血縁に囚われず、生活の中で繋がりがある、あの人やこの人とどう暮らししていくのか、それを具体的にイメージできるようにすることが大切です。

私は、小さなたねを利用する、医療ニーズが高く重い障がいのある人たちが「ここで」暮らし続けていくために、必要なことは何だろうとよく考えます。そのような人たちくりがあって、その思いに寄り添いつつ、次第に共感が生まれ、地域の診療所や病院、訪問看護、ヘルパー、地域住民というサポーターなどが構成されたチームが生まれます。そこに、その一人(または家族)にとつての「安心」や「安全」は創り上げられていくものではないでしょうか。そして、その繋がりが、やがて「いのち育むコミュニティ」を生み出していくのだと思います。

ところが、日常生活の中に、そんな場所があるはずもありませんし、そもそもそのような場所での生活は、日常とはかけ離れたものでありまじょう。では、暮らしの中の「安心」や「安全」とはどのようなことを言うのでしょうか。重い障がいのある彼(女)たちは、どんなに障がいが高くても、医療的ケアにニーズがあっても、「在宅」で暮らし、いるという前提から出発しなければなりません。つまり、病院という空間で医療者に囲まれているのではなく、家族に囲まれて日常を暮らしているということです。その中で「安心」であって、「安全」もまた築かれるということです。

そして、それを促していく原動力となるものは、当事者自身の「ここで暮らしたい」(もちろん、全ての人がそう願ったわけではないかもしれませんが)という「腹くくり」(子どもであれば保護者の)があることです。その「腹く

「コミュニティ」の萌芽があります。先の見えない生き難い社会だからこそ、その芽を大切にしながら育てていこうと、誰もが暮らしやすい地域社会を創る取り組みになるのだと思います。



私たちの「居場所」を目指して!



## とある日の……秋の外出



たまたま利用の少なかった土曜日の午後、  
「これはチャンス、とばかり、西区周船寺の  
コスモスを見に行きました。キレイでした。



## 「学校公開」を見学 今津特別支援学校へ

11月6日（金）、今津特別支援  
学校（西区）の学校公開に行って  
きました。たねを利用している子  
どもたちの、学校での様子を見る  
ことができました。

その後、「たね女子」たちは  
「弾丸買物ツアー」へと流れ込み、  
それぞれの家族へのプレゼントを  
購入していました。



## 新スタッフ紹介

～ 子どもたちの居場所 ～

はじめまして！お盆明けから、小さなたねでお仕事させていただいてお  
ります、看護師の伊藤雅子と申します。

先輩の言葉を真似すると「アラフィフの新人、といった感じでしょうか。  
(笑)「子どもが好きです」。子どもたちの瞳はキラキラしています。子ど  
もたちの生きる姿は力強いと感じます。子どもたちは未来だと思えます。

看護師になってからのウン十年……小児病棟、外来小児科クリニック、  
保育園での勤務を通して、たくさん子どもたちとの出会いがありました。

遠い日に救われたあの小さな命は今頃どうしているのかな……？ 保育  
園の入所を断られたあのご家族は、どんな毎日を過ごしているのかな  
……？ 様々な環境で育っていく子どもたちの居場所について考えると、  
ふと心配になることがあります。すべての子どもたちに、命輝くための居  
場所がありますように……そんなことに想いを巡らせていたら、気が付く  
と「小さなたね、での勤務を希望していました。

小児科の畑で育ってきた私ですが、たねさんのような畑に来たのは初め  
てです。皆さんの思いを大切に、皆さんと一緒に大きくなっていけたらな  
……と心から願っています。年はとっってもまだまだ未熟な私です。

看護師 伊藤 雅子







ある日、所長の案内を聞いていた新規利用（5歳）のお母様が、カフェを覗いて笑顔で「うちの子も大きくなったら、ここに通うことができるようになるのですね」と話されている言葉を耳にしました。こんなに小さな子のお母様にも、子どもの将来についてひとつの選択肢を伝えることができている「たねカフェ」のあり方を感じたひとこまでした。

「小さなたね」でスープカフェがある日は、朝の会でその日のカフェ担当者を決めます。担当者はカフェのマークが付いたサンバイザーをかぶり、「たねカフェ」で皆様のお越しをお待ちしています。そして当日のお支払いを、責任をもってお受けする大事な役割を担っています。

\*

今日もゆるやかな音楽が流れるおしゃれな「たねカフェ」で昼食です。ある方はお客様のおしゃべりを聞きながら注目をされ、またある方は秋風がこちよいテラス席で、ランチのミキサー食をいつにない速いペースで完食されました。お客様は顔なじみのボランティアのご夫婦や、わざわざタクシーで来てくださった知り合いの方など。

少しずつ広がりつつあるこの穏やかな空間をもっと多くの方に知って頂き、「小さなたね」の思いがさらに広がることを願った、ある日の「たねカフェ」のようすです。



「たねカフェ」での光景

今年もやります!!

小さなたねの  
餅つき&クリスマス会

日時：2015年12月23日 (水)

餅つき 10:00~12:00

クリスマス会 13:00~14:00

場所：小さなたね



秋も深まってきました。毎年の恒例行事となりました、餅つき&クリスマス会を今年も計画しています。皆様、どうぞお越し下さい。お手伝いも大歓迎です!!



※詳細については、小さなたねに直接お問い合わせ下さい。参加を希望される方は、改めて申し込みのご記入をお願いいたします。